

女子美術大学  
の教育改革  
プログラム

# 美大でのリエゾン型キャリア形成支援の展開

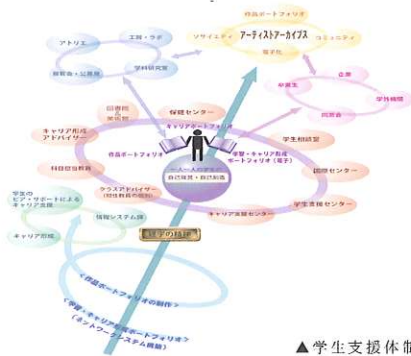
— キャリアポートフォリオを携えてソーシャルデビュー —

プログラム推進教員 / 小倉文子・川口香葉・工藤直・後藤浩介・杉田敦・大森拓

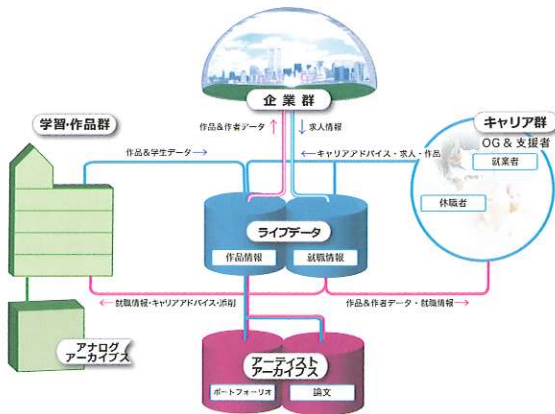
## ●リエゾン型キャリア支援

キャリア形成支援の意義は学生の未来を創ることにあります。本取組では、美大を卒業する女性の生涯を通じたキャリア形成支援を目的に、学内ネットワーク上に「電子ポートフォリオ」システムを構築し、学生、教職員、卒業生、企業や学外協力者と連携してのキャリア形成の支援を目指します。

高校からの大学入学時、あるいは卒業年次から社会に出て数年間は、特に支援やアドバイスが求められる時期です。本学では積極的なサポートや展覧会など作品発表の場の提供を行います。さらに「電子ポートフォリオ」システムを活用し、教職員や卒業生、協力企業からのアドバイスを可能とします。やがて卒業生は、支援を受ける側から支援者へと役割が循環して行きます。



▲学生支援体制



▲「電子ポートフォリオ」システム概念図

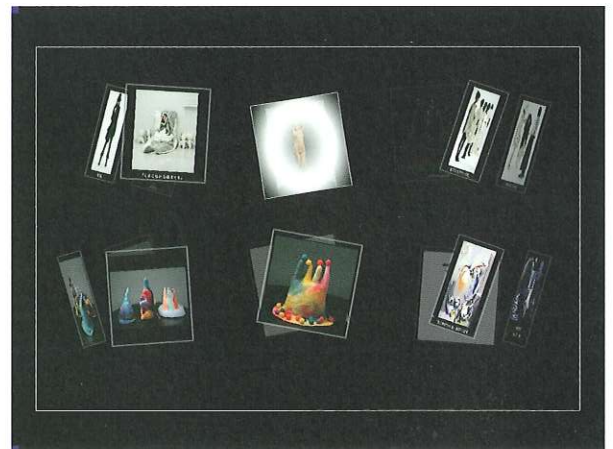
## ●電子ポートフォリオの活用

通常、学生は授業で作品を制作し、その成果を作品集＝「ポートフォリオ」という形でまとめます。本取組では、ICT技術を活用し、学生と教員が双方で学習・制作履歴を記録・閲覧可能とする「電子・学習ポートフォリオ」を作成します。それらは学年の進行に伴って、学生の作品制作の歩みや作風を示す「電子・キャリアポートフォリオ」に発展します。学生は、ポートフォリオの中で、自己の個性を表現します。そして「電子・キャリアポートフォリオ」

のシステムでは、学外より協力企業の人事担当者や本学卒業生にアクセス用IDを発行、作品アドバイスをすることができます。さらにそれは卒業生の作家を紹介する「アーティスト・アーカイブ」に進化し一般公開され、学生の良き目標となります。この3つのネットワークシステムの連携によって、在学中はもちろん将来に渡ってのキャリア支援を可能とします。



◆電子・キャリアポートフォリオシステム



◆アーティスト・アーカイブ



● File?展

作品ポートフォリオの展覧会の実施に合せ、全学の学生から作品ポートフォリオ(実物の作品ファイル)を公募し、展覧会にて展示公表し、学生を顕彰すると共に、作品集の刊行を行い、作品ポートフォリオ制作への学生の学習意欲を喚起します。



▲ File?展会場

● art & river bankファイル展への参加

また女子美では、学外で行われるファイル展にも積極的に協力しています。ファイル展にいち早く取り組み、のべで1000冊近いファイルの参加実績のある、東京のオルタナティブ・スペース、art & river bankでのファイル展“depositors meeting”(2002-)には、学生、教員が早くから積極的に参加してきましたが、2008年度からは、協力というかたちでより一層、連携しながら、そのあり方を探究しています。

● 電子ポートフォリオ制作ワークショップ

全学に作品ポートフォリオの教育普及を行う目的で、学習・キャリア形成支援ポートフォリオのデジタル化に伴うテクニカル学習会をワークショップの形態で開催します。教員や学生を対象に写真撮影、デジタルスキル、アーカイブ、メディア作成等に関するワークショップをピアサポートを取り入れて実施します。本学の学生は、実物と電子化された2つのポートフォリオを携えて、社会に旅立ちます。そこには学生の人間の成長

の足跡が記され、これを通して教職員、卒業生、企業人との豊かな交流を促がされます。



▲ 360度回転するVR電子アーティストアーカイブス



◀ 電子ポートフォリオ制作ワークショップ撮影風景

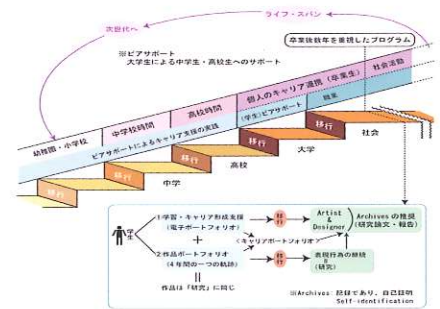
● 卒業後のキャリア支援

本学では、卒業生の活動を奨励する賞「バリ賞」「ミラノ賞」があります。

それぞれ受賞者決定には、現物のポートフォリオにて作品審査を行っています。

● ピアサポート

また、本取組は、初等・中等教育機関、企業等と本学のリエゾン(連携)により、学生達がキャリア形成を通し社会・地域等との関係性を育む実践プログラムでもあります。近隣の県立高校・本学付属高校等生徒のキャリア形成支援を目的として、学生が高校などに出向き、同じキャリア形成途上にあるピア(仲間)としてサポートを実施し、学生自身が自ら社会に在る自分自身の再発見・確認を行い、その結果を大学での学習にフィードバックするものです。



■ 取組の概要(平成20年度採択原文抜粋)

本取組は、初等・中等教育機関、企業等と本学のリエゾン(連携)により、学生達がキャリア形成を通し社会・地域等との関係性を育む実践プログラムである。アートツールとして使用する美術大学の作品ファイルを、一般大学の学生の自分史、自己表現のメディアへ汎用化する試みでもある。本学は学生の表現活動の範囲拡大を目的に全学で作品ポートフォリオ制作に取組み、学生自身の社会性獲得を実現する。手始めに、学生の学習履歴を記録しキャリア形成を支援する電子ツールを開発し、実物と電子のキャリアポートフォリオとして学生の人間の成長の足跡を残し、教職員、卒業生、企業人との豊かな交流を促す。またキャリアポートフォリオを学生のピアサポートに用い、卒業後の表現者の揺籃期と、さらにそれ以降を継続支援する卒業生サポートのデータベースとしてアーティストアーカイブスに進化・発展させ、学生が社会へ繋がるリエゾン型キャリア形成支援を展開する。

■ 採択理由(平成20年度採択原文抜粋)

女子美術大学においては、学生を大学の中心に位置づけ、教職一体となり、協働して学生の成長と人間としての自立と社会的対応能力を育成するという明確な理念を有しています。そして、キャリア形成を一生を通じて実現させる人間の生き方として支援するために、「学習キャリア形成推進センター」において組織的に実施し、さらに横の連携を目指しています。その結果は、地方自治体、まちの人々、NPO、企業等地域社会との協働としての作品ポートフォリオ制作により、学生の成長と社会性獲得をもたらしており、支援のプロセスも明確で、特に、美術系の学生を支援するプロセスに他に見られない新規性と独自性のある取組であると言えます。また、個々の学生の作品ポートフォリオを電子ネットワーク上に構築し、学生同士のピアサポートや教員による指導もを行っています。さらに、4年間を通じて、小学校や中学校、高等学校でのキャリア支援とピアサポートにより、リエゾン型キャリア形成支援を展開するとともに、卒業後も含めた生涯のキャリア形成を支援する取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。